

令和7年12月定例会一般質問

通告7

質問 小児予防接種における保護者の意思尊重と価値観の転換 (パラダイムシフト) に対応した行政支援について

3番 栗栖陽介 議員

【質問：栗栖 陽介 議員】

3番、栗栖陽介です。小児予防接種における保護者の意思尊重と価値観の転換パラダイムシフトに対応した行政支援について、2つの質問をいたします。



質問 急速に変化する情報社会での保護者意識の尊重を

答弁 予防接種の重要性等・任意接種（努力義務）を周知します

【質問：栗栖 陽介 議員】

まず一つ目、急速に変化する情報社会での保護者意識の尊重をということで質問させていただきます。

現在は、インターネットやSNSが生活に深く浸透し、人々があらゆる情報に瞬時にアクセスできる時代となりました。ワクチンに関する情報についても同様に、正確な内容だけではなく、不確かなものや誤解を招くもので、多種多様な情報が流通しております。

しかし一方で、以前はフェイクニュース、誤情報として片づけられていた内容が後に事実であったと判明した例も複数存在するなど、情報の真偽に対する社会の価値観そのものが大きく変化しています。これはまさに社会全体がパラダイムシフトの過程にあると言えます。

こうした環境の中で、保護者が小児予防接種に対して不安や疑問を持つことは自然なことであり、その多くは子どもの健康を守りたいという強い思いから生じるものです。

実際、私の身近にも小児ワクチンを接種しないという判断をした家庭があります。その

お子さんは現在高校3年生になりましたが、これまで大きく体調を崩したこともなく、健やかに成長していると伺っています。これは一例であり、一般化はできませんが、保護者が多様な考えを持ち選択をしている現実のあらわれでもあります。

小児の定期予防接種は、かつて予防接種法により義務接種、強制接種として実施されてきました。しかし、1994年、平成6年の予防接種改正法により、接種するよう努めましょうという努力義務へと制度が変わりました。この制度変更は保護者の意思を尊重する方向へと舵を切った。子どもの体質や家庭の状況に合わせた選択が可能になった。予防接種は強制ではなく、保護者の判断へと移行したという重大な転換点であり、これも一つのパラダイムシフトと言えます。

しかし現状、小学校から配布される保健センターのプリントには、ワクチンを推奨しますと記載されていながら、任意接種（努力義務）である旨が明記されていないという状況があります。制度として保護者の選択が認められている以上、案内文にもその点を適切に記載することが必要ではないでしょうか。行政にはこうした保護者の不安に寄り添い、安心して相談できる環境を整えていく姿勢が求められます。

社会全体がパラダイムシフトを迎えている今、小児予防接種に対する保護者の不安や疑問を軽減、意思を尊重し支援していくためにも、また、予防接種改正法により努力義務となった制度の趣旨を踏まえ、小学校で配布される予防接種お知らせのプリントにも、現行制度どおり、任意接種（努力義務）である旨を明記すべきではないかと考えますが、いかがでしょうか。

【答弁：町民生活部長】

栗栖議員御質問の急速に変化する情報社会での保護者意識の尊重をについて、代わって御答弁申し上げます。

予防接種の対象となる病気につきましては、予防接種の接種目的により、A類疾病とB類疾病に分類されており、B類疾病が個人の予防に重点を置いているのに対し、A類疾病は集団での予防や重篤な疾患の予防に重点を置いております。そのA類疾病に分類されている小児の予防接種につきましては、議員御説明のとおり、かつてのように強制接種ではありませんが、多くの方が予防接種を受けることにより、社会全体が感染症から守られるという目的があるため、努力義務が課せられております。

以上のことから、今後については、予防接種の重要性等及び任意接種（努力義務）であることについて記載を含め周知してまいりますので、御理解を賜りますようお願い申し上げます。

質問 予防接種における丁寧な対応を

答弁 保健センター内での情報の共有・説明を統一します。

【質問：栗栖 陽介 議員】

3 番、栗栖陽介です。2 つ目の質問に移りたいと思います。

予防接種における丁寧な対応をと言うことで質問させていただきますが、保護者から予防接種に関する説明の際、気になる対応を受けたという声が寄せられています。

例えば、予防接種をしていないので早く済ませてくださいと強い口調で言われた。接種しないならもし病気にかかったときに病院では助けられませんよと言われたり、こうした言い方は保護者に不必要な心理的負担を与え、行政や医療機関に対する不信感につながる可能性があります。

また、副反応や免疫反応に対する不安も保護者の中に根強くあります。アレルギー反応やアナフィラキシーショックなど注意が必要な副反応が存在することは事実です。このためメリットとデメリットの両面を丁寧に説明し、中立的な姿勢で寄り添うことが不可欠です。

保健センターは住民に最も身近な医療的相談窓口です。行政として中立的で丁寧な対応を徹底するための研修や指導体制を整える必要があります。保護者が不安を抱かないよう、中立的で丁寧な説明や寄り添った対応を徹底するために、行政としてどのような研修体制や指導体制を整備するのか、お聞かせください。

【答弁：町民生活部長】

栗栖議員御質問の予防接種における丁寧な対応をについて、代わって御答弁申し上げます。

乳幼児の定期予防接種に関しましては、訪問や各種相談時に保健師からワクチンの種類や接種の時期等を説明しており、また、個別での相談についても都度対応しておりますが、その際、保護者の希望により接種するかしないかを選択できることを説明しており、接種する場合は対象となる医療機関での予約、受診を行っていただいております。

また、各予防接種の予診票には、保護者の同意欄が設けられており、接種時には説明書の配布や医師からの説明を受けた上で接種を行っております。

議員御指摘の気になる対応を受けたという点につきましては、日頃より十分注意しているところではございますが、今後ともそのようなことのないよう、接種対象者本人や保護者に対して親切で丁寧な説明を心がけ、寄り添った対応に努めてまいりますので、御理解

を賜りますようお願い申し上げます。

【再質問：栗栖 陽介 議員】

3 番、栗栖陽介です。再質問させていただきます。

先ほどの御答弁では、丁寧に説明している、寄り添った対応に努めているとの御説明でした。

しかし、実際には保護者からは強い口調でせかされたといった声が複数寄せられており、行政の認識と現場の実際の受け止めに明らかなギャップが生じております。

例えば他町の例を挙げますと、保健師と保護者間で大喧嘩になったことがあるとも聞いております。それでも保健師さんの皆さんが限られた人数で多くの業務を担い、負担が大きい状況にあることも、私としても重々承知しております。

その上で申し上げますが、実際には子どもに小児ワクチンを打たせたくないとする保護者もあり、これはまさに子どもの命と健康に関わる大きな決断であるため、なおさら丁寧に中立的な説明が求められるものです。

そこで伺います。今後起こりうる可能性があるトラブルを防止、保健師を守るために国の制度を正しく保護者へ伝えるために、説明内容のばらつきをなくし不安や誤解を生まないためにも、町として説明内容の基準となる書面でよろしいので、しかも保健センター内で共有ということでもよろしいのですが、そのお考えはございませんでしょうか。

【答弁：町民生活部長】

ただいまの栗栖議員の再質問に御答弁申し上げます。

保健センター内で情報の共有、それと説明についての統一ということで御質問でございましたけれども、当然その部分については考えてまいらなければいけないというふうに、こちらでも考えてございますので、今後においては対応させていただきたいというふうに考えております。以上になります。